



第3回 災害対策委員会を開催しました！

11月16日（水）、ウェブ会議システムを使用し『2022年度第3回災害対策委員会』を開催しました。今回は、日本赤十字社千葉県支部 救護福祉課の木島係長より「赤十字防災セミナーのカリキュラム」についてと千葉県連災害アドバイザーの水島氏より「コロナ禍における大規模災害時の対応変化と指針」について説明をいただきました。千葉県生協連災害対策委員会委員、事務局など合わせて13名の参加がありました。

（1）赤十字防災セミナーのカリキュラムについて

日本赤十字社千葉県支部 事業部 救護福祉課 救護係長 木島 淳 様

赤十字防災セミナーは（原則）日本に在住する地域住民を対象に自ら災害からいのちを守り罹災に伴う心身の苦痛を軽減することを目的として、受講者に災害に対する「気づき」をうながし防災対応力の向上を図ることを目標としています。



カリキュラムは4つあり、発災初期のいのちを守る具体的な方法に重きをおいています。

- 1 日本赤十字社の紹介 日本赤十字社の活動内容や災害時の役割、防災への取り組みについて理解する。
- 2 災害への備え 自分のいのちと地域を守るために、防災や減災の考え方、地震・津波・風水害がもたらす様々な被害から、平時の備えの重要性を理解する。
- 3 災害エスノグラフィー 災害という非日常で、自分がすべきことを考えるために、大規模災害の被災者の経験談を通じて、災害を体験することで被災の具体的なイメージを理解する。
- 4 災害図上訓練 災害を知り、地域を知り、人を知るために、地域の防災マップの作成を通じて、防災上の資源や危険箇所等を把握・理解し、個人や地域での防災対策の実施につなげる。

・必要なカリキュラムを選択、組み合わせて実施します。

木島係長よりカリキュラムについて詳しく説明を聞いた後、動画を見てあらためて共助の大切さ、重要性を再確認しました。

（2）『コロナ禍における大規模災害時の対応変化と指針』

千葉県生協連 災害アドバイザー 水島 重光 様

今までの災害は、地震、火山噴火、津波、風水害などの自然災害が



主だったが、コロナやインフルエンザなどの感染症などを合わせての複合災害となっています。

※ 避難所問題 収容人数が制限される→在宅避難の選択者が増加

※ 在宅避難の備え 自助備蓄を含む事前対策が必要

(水・トイレ・食料・紙類・電気・情報の確保)

- ・震度6以上の場合はトイレなどの下水は排水禁止になる可能性あり
- ・物資不足

※ 今後の検討課題 各生協の職場の備え

職員教育の必要性 (事業継続マネジメントBCM)

コロナ禍での組合員へのサポート

(3) 各生協・関係団体からの報告

・コープみらい、パルシステム千葉、生活クラブ千葉より、11月12日行われた松戸市の総合防災訓練に参加し、物資の手配を書類もとに発注、水やパンを搬送搬入する実践的な訓練を行った報告がありました。

・こくみん共済coopより、コープ火災共済の案内だけでなく事前の備えとして防災減災の視点から提案できるよう職員に防災士の育成をしているとの報告がありました。

(4) 日本生協連中央地連からの報告

11月1日に日生協の大災協の世話人会の開催報告と12月のMCA無線訓練の進め方を変更する予定との報告がありました。

(5) 千葉県連事務局からの報告

2022年度九都県市合同防災訓練の報告と2023年3月に千葉県生協連の図上訓練の検討について報告がありました。

